

UNHCRへの緊急無償支援：新規プロジェクト開始式典 ヨルダン北東部における医療分野への支援

2018年6月26日、日本の緊急無償支援（100万USD）により、UNHCRがヨルダン北東部で実施しているシリア難民への医療支援プロジェクトの開始式典が開催され、柳駐ヨルダン大使、セベレUNHCRヨルダン事務所代表、シリア難民支援局を代表して、クレイシャ・ザアタリ難民キャンプ所長及びUNHCR関係者が出席しました。また柳大使は、同式典後にザアタリ・シリア難民キャンプ内のクリニック及び難民登録所をそれぞれ視察し、ヨルダン北東部で活躍されている副島フィールド・オフィサーを含むUNHCR職員の説明を受けました。

開始式典で、柳大使は、ヨルダンが大量のシリア難民を受け入れていること及びUNHCRのヨルダンでの活動を評価しており、シリア内戦勃発以降、これまでのUNHCRのヨルダンでの活動に対する支援は合計で5千万ドル以上となること、今年2月の補正予算でのUNHCRへの支援370万ドルに加えて、この度ヨルダン北東部における医療分野への支援として100万ドルの緊急無償支援の拠出を決定した旨説明し、引き続きシリア難民を支援していきたいと述べました。

セベレUNHCR代表は、今年初めの保健分野での法改正により、シリア難民の医療負担額が増加し、難民が必要な医療を受けることが一層難しくなったが、この度の日本の医療分野への支援により、UNHCRを通じ、少しでも多くのシリア難民に必要な医療が提供できるようになると説明し、日本の継続的な支援に対する感謝の意を表明しました。

式典での柳大使による挨拶



ザアタリ難民キャンプでの活動を支援するドナー国の国旗が掲載された看板前での記念撮影



ザアタリキャンプ内クリニックの視察



ザアタリキャンプ内の難民登録所の視察

